

防災官の声

8

2024年

退職自衛官採用のメリット

自衛隊在任間に培われた、災害対処の実務能力(※)は、地方公共団体の危機管理対処能力を向上させます。

また、防災行政に関する首長等への的確な助言や自衛隊等関係機関とのネットワーク構築が期待できます。

※主な能力として

- 指揮官が様々な状況に対し、的確な状況判断ができるよう補佐(情報収集、分析等)
- 自衛隊の運用に関する知識と経験
- 訓練指導能力及び調整能力などです。



福岡県内の採用状況

福岡県を含む61市町村ある中の**20**の自治体に在籍。(掲載日現在) 今回は、**芦屋町**にご協力いただきました。



芦屋町役場 総務課

庶務係長 宮川 貴如 様



芦屋町の概要等

芦屋町 人口 12,809人 (令和6年4月1日現在)
面積 11.58km²



福岡県の北部に位置する芦屋町は、東を北九州市に隣接し、響灘を臨む遠賀川の河口に広がる町です。町の中央部を流れる遠賀川を挟んで両極端な海岸線は、東側は奇岩景勝の磯を形成し、西側は白砂青松のなだらかな海岸となっています。いずれも多く多くの観光客を集め、北九州都市圏の海洋レジャータウンとなっています。

退職自衛官の採用について

本町は、昭和28年の西日本水害以降、死者や大規模な家屋の損壊などが発生する大きな災害は幸いなことに発生していません。しかし、近年の異常気象や線状降水帯の発生などに伴う大雨、また、直下型の大地震や日本海側で発生した地震に起因する津波などは、いつ発生しても不思議ではなく、福岡県内でも毎年豪雨災害が発生している状況でした。

そのため、危機管理能力の優れた人材を確保し、芦屋町の防災及び災害の危機管理並びに重要施策を推進していくべきではないかという考えから、内閣府の定める「地域防災マネージャー」の資格を有する者が多い退職自衛官を任用することとし、令和2年度から「危機管理専門官」を任期付職員として任用したところです。

危機管理専門官の仕事内容について

【災害時】

- ・災害対策（警戒）本部等の設置、廃止等の判断、助言
- ・避難情報の判断、伝達助言、防災関係機関等との連絡調整
- ・災害対策（警戒）本部への意見具申

【平時】

- ・各種防災計画等、災害対応時のマニュアルの作成、助言
- ・防災訓練等の実施計画書の作成、住民、各種関係機関との調整
- ・防災士養成、住民向け出前講座の実施
- ・備蓄物資の管理
- ・気象情報の収集と意見具申



退職自衛官を採用して

岸本危機管理専門官を任用した令和2年4月は、新型コロナウイルス感染症という未曾有の有事に対して自治体としての対応を迫られた時でした。すぐさま、自衛隊での勤務経験で養われた有事への対処能力、危機管理意識をもとにした実行力を請われ、町の新型コロナウイルス感染症対策本部会議に出席を求められ、必要に応じて意見具申していただきました。

また、新型コロナウイルス感染症に対応した新たな避難所開設・運営マニュアルを作成したほか、マニュアルに基づいたコロナ仕様の訓練を僅か2か月で企画、実施し、多くの職員から、「岸本さんがいてくれてよかったね」という声が寄せられました。

こうしたマニュアルの作成を速やかに行えたことで、令和2年9月に到来した「過去最強クラス」と言われた令和2年台風10号では、本町の記録上初めて100人を超える方が避難所に身を寄せられた際（最終的には141人）にも、災害警戒本部の設置、職員の参集、情報の収集など「参謀」として、的確に災害警戒本部に助言され、大きな混乱もなく災害対応に対処できたことは岸本危機管理専門官のおかげでした。

特に岸本危機管理専門官は、気象予報士の資格を有し、地元の航空自衛隊芦屋基地での気象隊勤務の経験から、気象情報全般の分析、予報もさることながら、地元の気象を熟知していることから、気象台が災害への備えをアナウンスする前から、発災や有事に備えることができており、非常に助かっています。休日の際にも、気象を具に観察されており、まさに「常在戦場」をモットーに本町で業務をされています。

退職自衛官の声

私は、航空自衛隊で主に気象幹部として勤務し、職種の関係から気象予報士の資格に加え、定年前に防災士の資格を得ることができました。令和2年春の退官と同時期に、芦屋町で危機管理専門官を新たに設け、任用するという話を芦屋基地援護室からいただき、現在、再就職の場として芦屋町役場にて勤務しています。

役場での仕事は、避難訓練の計画を始め、各種防災マニュアルの改正など、防災に関する業務を行っています。また、大雨など災害のおそれがあるときは、気象台や関係各所より気象や災害に関する情報を入手し、避難情報発令の助言や災害対応業務を防災担当職員とともにしています。

実災害時に被害を少なくするためには、どのような訓練や備えをしておくべきなのか、町民の防災意識を高めるには何をどこまでやればいいのかなど、防災業務は難しい面がありますが、災害に対し被害を最小限にとどめ、町民の命を守るため、物心両面の備えを積み重ねていく責任重大な仕事だと感じています。これからも防災業務に真摯に取り組み、危機管理専門官としての職責を果たして行きたいと思えます。



岸本 三英 氏
航空気象群芦屋気象隊
で定年退職
(令和2年4月入庁)

